

第 1 回神崎市水の郷再生市民会議

開催日時	令和3年10月29日（金） 10:00～11:00	
開催場所	神崎市役所3階大会議室	
出席者	委員	<p>15名中14名出席</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐賀大学 教授 神崎市水源地域振興対策検討委員会 委員長 五十嵐 勉 会長 ・九州防災エキスパート会 佐賀（河川）支部長 福山 龍一 副会長 ・一般財団法人 佐賀県環境科学検査協会 企画室 室長 松尾 保成 委員 ・特定非営利活動法人 技術交流フォーラム委員 藤永 正弘 委員 ・神崎市観光協会 会長 島 富士男 委員 ・神崎市商工会 会長 永沼 功 委員 ・一般社団法人 神埼建設業協会 会長 牟田 正明 委員 ・佐賀東部土地改良区 事務局長 古田 博人 委員 ・神埼そうめん協同組合 代表 井上 義博 委員 ・（株）ヤクルト本社 佐賀工場 施設管理課 課長 大森 康行 委員 (代理出席者：佐賀工場 工場長 上田 貴夫) ・特定非営利活動法人 CSOかんざき 副理事長 吉原 俊樹 委員 ・水車の里振興会 代表 佐々木 彰 委員 ・神崎市教育委員 菱岡 智美 委員 ・神崎市地域おこし協力隊 吉富 友梨奈 委員
	顧問	<ul style="list-style-type: none"> ・元参議院議員 全国治水期成同盟連合会 最高顧問 城原川改修・城原川ダム建設促期成会 顧問 陣内 孝雄 ・神崎市長 松本 茂幸
	アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・筑後川河川事務所長 吉田 大 ・佐賀河川事務所長 亀園 隆 ・佐賀県東部土木事務所長 宮崎 厚志 ・佐賀県東部農林事務所長 藤 邦広 ・嘉瀬川交流軸 理事 光武 富雄 ・神崎市議会 産業建設常任委員長 山口 義文 ・神崎市副市長 田中 信博
	傍聴者	4名
	記録者	1名

議事録

<p>開会 (事務局)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回神崎市水の郷再生市民会議の開会に先立ち、事務局の司会により、当委員会の傍聴及びホームページ等での議事録（発言者匿名、発言内容の要旨）の公開について、委員より了解を得た。 ・本委員会は定刻に開会した。
<p>委嘱状の交付 (事務局)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・松本市長から委員へ委嘱状を交付した。
<p>市長あいさつ (事務局)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・松本市長より委員の皆様にあいさつを行った。 <p><以下、あいさつの要約></p> <p style="padding-left: 2em;">本日お集まりいただいたこと、また本会議への出席を引き受けていただいたことにお礼を申し上げます。本会議によって、神崎市民が水と関わりながら良い生活ができれば良いと思う。</p> <p style="padding-left: 2em;">神崎市は、脊振山系の水の恩恵を受け、今日までの生活を豊かにしてきた。また、近年の豪雨により災害が発生しているものの、国や県、地元の皆様が力を合わせ、災害の軽減や防止にも努めている。</p> <p style="padding-left: 2em;">私たちの身の回りに流れる水は、以前は澄み切った水が流れており、本庁舎の東側にある馬場川の水量も十分であった。しかし、近年は非常に流量が少ないためか、ヘドロの沈殿や水草の繁茂が見られ、ヒゴイ等の魚類は姿を消した。</p> <p style="padding-left: 2em;">従前の素晴らしい神崎の水の郷を復元・再現するためにも、国や県の協力によって、城原川や田手川の整備を進めてもらっている。また、馬場川や三本松川、中地江川も非常に良く整備してもらった。一方、圃場整備も進み、従前のクリークから大きく様変わりし、東西南北に水道の張り巡るようになった。そのため、水の流れが変わり、生活環境の劣化も伺える。</p> <p style="padding-left: 2em;">このような現状を改善し、神崎の素晴らしい郷土の形成のためにも、水の郷をもう一度蘇らせたいという思いでいる。本会議に出席している皆様の賛同や会議の発足を本当に誇りに思う。皆様の経験や知恵を融合し、より良い神崎の姿になることを祈念している。</p>
<p>委員紹介 (事務局)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1に基づき、委員15名を紹介した。
<p>顧問およびアドバイザーの紹介 (事務局)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・顧問2名およびアドバイザー7名を紹介した。
<p>陣内顧問あいさつ (事務局)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・陣内顧問より委員の皆様にあいさつを行った。 <p><以下、あいさつの要約></p> <p style="padding-left: 2em;">皆様には大変長いことお世話になっている。本日は、本会議のために市民団体の代表や学識経験者、行政関係者等、多くの方々が参加している。かねてから松本市長には神崎市の水の再生に大変ご尽力いただいております、さらにこれを一歩進め、確かなものになりたいという気持ちで本会議が開かれるようになったと伺って</p>

	<p>いる。皆様の様々な嘆きを頂戴し、神埼の水の再生が確かな方向に向かって進んでいくよう力を賜りたい。</p> <p>この地域では、現在、城原川ダムの建設や城原川の河川改修等を進めてもらっている。気候変動による年間雨量の減少や雨の降り方の変化、大洪水や大渇水発生の可能性等を意識しながら、水の再生に取り組んでいくことをお願いしたい。私自身も、この地域で生まれ育ってきた恩返しとして、微力ながらに努めたい。</p> <p>私が子どもの頃は、城原川、中地江川、馬場川が夏場に農業用水の水路として利用され、水が文化や歴史をつくってきた。私は、西郷小学校に通っていたが、城原川から中地江川へ入ってくる水を砂のろ過槽を通し、飲料水として使っていた。また、遠足では、仁比山にある麦の製粉所を訪れ、本当に素晴らしい地域だなと、水は神埼の産業を支えてるのだなと、子どもながらに感じていた。</p> <p>市長の話にもあったが、馬場川には1年を通してヒゴイが泳いでいた。それが残念ながら姿を消し、かつて「水の郷百選」に入った神埼の町が当時の面影なく様変わりしてしまっている。これは、農業用水が整備され、水路が変わったことや冬場の水の減少が影響している。他地域の水の郷はそれぞれに競い合っ、地域おこしに役立っているが、当該地域においては松本市長の懸命の努力がありながらも、皆様の英知と協力を得なければ、水の郷の再生が難しい状況にある。</p> <p>ダム建設や河川改修を進める中で、河川環境をどのように再生していくか、課題は多いと思うが、十分な調査や研究等を実施し、ぜひこれを実現できるよう、市長の願いが1日も早く実現できるよう、皆様に協力してほしい。</p>
<p>設立趣旨・概要 の説明 (事務局)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を確認した。 [配布資料] 資料1 神埼市水の郷再生市民会議 役員名簿 資料2 神埼市水の郷再生市民会議 設置要綱 資料3 神埼市水の郷再生市民会議 設立趣意 資料4 神埼市水の郷再生市民会議 資料 資料5 「水の郷」かんざき位置図 ・資料3に基づき、当会議の設立趣意を説明した。 ・資料2に基づき、当会議の概要を説明した。 ・両説明に対し、出席者からの質問等はなかった。
<p>議題(1) 会長および副会 長の選任 (事務局)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の会議は、当会議の開催要件である「神埼市水の郷再生市民会議 設置要綱 第6条第2項」の規定を満たしているため、当会議が成立していることを報告した。 ・会長および副会長の選任について、委員に選任を求めたが意見はなかった。そのため、事務局案として、会長に五十嵐 勉 委員、副会長に福山 龍一 委員を推薦した。 ・これに対し、委員から異議はなく、全会一致で事務局案が採用された。 ・選任された五十嵐会長よりあいさつを頂いた。

	<p><以下、あいさつの要約></p> <p>水の郷の認定から四半世紀を経て、今の神埼市の水環境の現状を委員の皆様と共有した上で、いかにこれを保全し、後の世代に継承していくのか、暮らしや安心安全に関わる防災・減災という問題を前提とし、神埼市で継承してきた水の文化を大事にしながら、いかに市民に参加していただくか。また、市民一人一人が当事者としてしっかりとこの問題を受け止めてもらい、市民総参加で水の郷を再生していくために、どのような課題を克服しなければいけないのか。そのようなことをこの会議を通じて皆様と議論したいと思っている。</p> <p>残り時間は限られているが、まずは、課題の共有とこの会議が何を指すのか、皆様と意見を交わしたいと思う。</p> <p>・あいさつの後、議事進行を事務局から五十嵐会長に引き継いだ。</p>
議題（２） 神埼市の水の歴史と産業との関わり、現状と課題について (事務局)	<p>・資料４（１～８頁）に基づき、神埼市の水の歴史と産業との関わり、現状と課題について説明した。</p>
(委員長)	事務局からの説明内容に質問・意見はあるか。
(顧問)	資料４（４頁）に、重要な水環境として「中地江川」を追加した方が良い。
(委員長)	了解。事務局は、資料４の４頁に中地江川を追加すること。 他に質問・意見はあるか。
(委員)	馬場川親水公園が資料４の４頁の様子から６頁の様子に変容してしまった理由は何か。私は、水量が非常に減ってしまったために、草が繁茂してしまっていると思う。
(顧問)	先の意見に同意する。今の佐賀導水路の東部に位置する筑後川から城原川へ0.1m ³ /sの用水を補給する計画となっているが、これはかつて城原川に自然の流れが現在よりもあり、それを安定化するために0.1m ³ /sの流入とした判断だったと記憶している。しかし、現状の流量を加味し、0.1m ³ /sのままで良いのか、どうしたら良いかを真剣に考えていくことが重要である。
(会長)	河川の流量が減っている事実や科学的な根拠が重要である。国や県で管理している河川の流量データを事務局に提供してほしい。 他に質問・意見はあるか。
(委員)	平成15年の流域委員会では、治水の話はあったが、利水や環境の話がほとんどなかった。また、流水型の城原川ダムは、生物多様性や水源地域振興の観点、費用対効果についてもメリットが少ないと感じている。現状をより良くするために、水をどこかでつくらなければいけないことについて、当会議で話し合っていきたい。
(会長)	“水をつくる”というのは、水源涵養林の維持・強化であると理解している。

	他に質問・意見はあるか。
(委員)	<p>榎田宮・長崎街道を生かしたまちづくりの取組を紹介する。</p> <p>まちなかの賑わいをもう一度戻すためには、拠点が必要であると考えたところ、その拠点として馬場川が挙げられた。馬場川の土井の上橋の架け替えに伴い、南側に幅を広げ、まちのイメージパースをワークショップで作成している。また、ムクの木が旧長崎街道の馬場川沿いに残っており、そこに子供たちが遊べる場を作りたいとも考えている。</p> <p>佐賀市では、川に親しむことを目的として皆で護国神社を清掃し、良い川場となっている。まさにこれが市民協働の素晴らしい取り組みや雰囲気である。このようなことを今回の水の郷の再生の中で行き、市民の川への想いを盛り上げていきたい。また、まちなかを盛り上げるには、土井の上橋を拠点とすることも要点になるのではと考えている。</p> <p>市民に何ができるかということ进行全面に出して、当会議を通じて、水の郷の再生を盛り上げていきたい。旧庁舎の跡地の活用や親水魚を生かした整備のようなものに期待している。</p>
(会長)	<p>旧長崎街道沿いのにぎわいの創出と水の活用へのご尽力を紹介してもらった。</p> <p>また、本日の説明の中で、水と産業との関係について説明があったが、市民目線で重要なことは、“水とくらし”や“生活の文化”が継承されていないことである。かつては、下水道や集落排水が未整備の時には、直接汚水を排水しない等の配慮があった。横武クリーク公園ができた際には、堀とくらしの関係を語る語り部もいた。</p> <p>佐賀市では、土地改良区や農政局等を講師に小学校の特別授業があるが、堀と住民のくらしとの関わりを学校教育でどのように教えているのか。また、くらしと水の文化にはどのようなものがあり、何が継承されているのかを話し合いたい。</p> <p>他に質問や意見があれば、時間の都合上、メールで事務局に連絡してほしい。</p>
議題(3) 神崎市水の郷再生市民会議の方向性・取組み・スケジュール(案)について(事務局)	<p>・資料4(9~11頁)に基づき、神崎市水の郷再生市民会議の方向性・取組み・スケジュール(案)について説明した。</p>
(会長)	<p>次回の当会議は、3月開催となっている。そこでは、具体的にどう行動するかを話し合う予定である。</p> <p>本日は、まず、当会議の活動イメージについて意見や質問がほしい。</p> <p>本日の出席者は、専門知識を有している方々であるが、重要なことは市民の考えや意見を反映できる仕組みづくりである。総合計画の策定等で、水に関する既存の住民アンケート等はないか。市民が水についてどのように考えているのかが分かる資料の収集を検討してほしい。</p>

	当初、今年度内に馬場川の清掃活動も考えていたが、新型コロナウイルス感染症まん延の影響から、来年度の実施を予定している。
(委員)	高取山公園において、地域外へのPRを念頭に置きながら活動している。 脊振は水がきれいというイメージがあり、友人の子供が川遊びをしたいとも言っている。地元の方にどこで川遊びをしたら良いかを聞くが、他地域を紹介されてしまう。もっと市内を探せば、川の流れが穏やかで安全なところがあるのではないか。川遊びができる場所に加え、蛍がきれいな場所もマップに示し、市外の方へのPRも重要ではないかと感じている。
(会長)	水の郷の魅力について積極的に情報発信をしていくことは、重要なテーマであると考えている。これは、地域住民の地域に対する誇りの醸成や観光資源の活用へと繋がっていく。当該意見はぜひ参考にしたい。
(会長)	・全ての議題を終了し、議事進行を事務局に引き継いだ。
閉会 (事務局)	・第1回神崎市水の郷再生市民会議を閉会した。

以 上